

2022年9月のおでかけ指数

～第7波の影響一服し、緩やかに回復

2022年10月12日

公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部

九経調 DATASALAD (<https://datasalad.jp/>) では、景気、産業、社会に関する政府統計に加え、人流や求人等のビッグデータ・オルタナティブデータを、地域の景気や産業の動向を分析する指標として加工、可視化している。

本稿では、当会が提供している人流モニタリングプラットフォーム「おでかけウォッチャー」(<https://odekake-watcher.info/>) の掲載データ¹の一部を集約した「おでかけ指数²」により、2022年9月における全国の人流動向を分析する。なお、DATASALAD 上では、来訪地側（着地側）と発地側の2種類の「おでかけ指数」を公表しているが、本稿では主に来訪地側を取り上げる。



1. 全国の9月のおでかけ指数：第7波影響一服し、緩やかに回復

2022年9月における全国のおでかけ指数は56.9となった（図1）。前年比で+52.1%と10カ月連続で前年を上回った。ただしプラス幅は8月よりも縮小した。一方、2019年同月比では▲40.2%と3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した（図2）。全体としてみれば、新型コロナ第7波の影響が一服し回復傾向に戻りつつあるが、そのペースは緩やかなものとなっている。本来ならば外出需要が伸びる週末・3連休に台風が多数襲来するなど、天候が阻害要因になったとみられる。

図1 おでかけ指数の月次推移（全国）

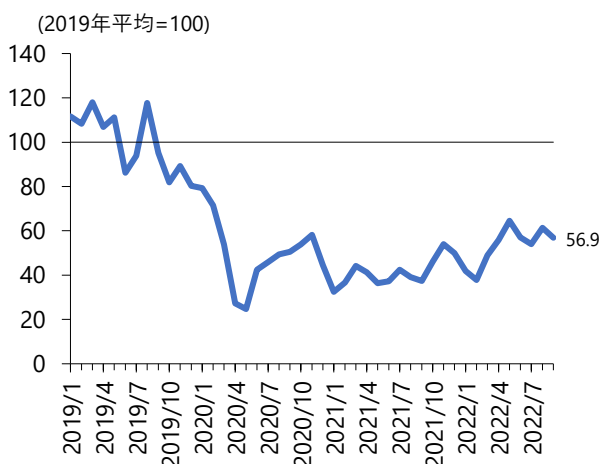
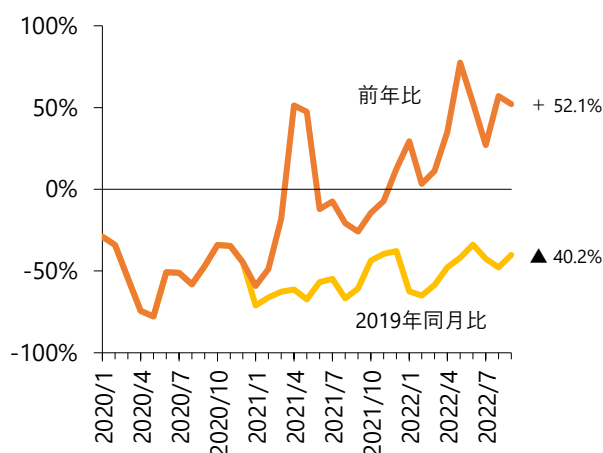


図2 おでかけ指数前年比・2019年同月比（全国）



注) 2022年10月2日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

¹ 「おでかけウォッチャー」で提供している位置情報ビッグデータは、株式会社ブログウォッチャーより提供を受けたものであり、承諾を得たユーザー（月間2,500万MAU）のスマートフォンから取得したものである。

² おでかけ指数は、新型コロナウイルス感染拡大前である2019年の日平均を100とした指数である。

2. 地域ブロック別のおでかけ指数： 地方圏で相対的に回復進む

2022年9月のおでかけ指数を12の地域ブロック別にみると、前月までと同様に全地域で前年比はプラスであるが、北海道、東北、東海、北陸以外の8地域では前月よりもプラス幅が縮小した（表1、表2）。また2019年同月比は全地域で前月よりもマイナス幅が縮小し、全国的に回復傾向となっている。北海道（▲25.5%）や東北（▲28.3%）、甲信越（▲32.8%）など首都圏（南関東）との行き来が多い東日本のほか、九州（▲33.6%）など地方圏で相対的にマイナス幅が小さく、回復が進んでいる。一方で三大都市をかかえる南関東（▲47.8%）、近畿（▲41.1%）、東海（▲40.5%）のほか、沖縄（▲46.5%）では回復が鈍い。

表1 地域ブロック別おでかけ指数

地域	2022年	前年比	2019年
	9月		同月比
全国	56.9	+ 52.1%	▲ 40.2%
北海道	87.0	+ 65.1%	▲ 25.5%
東北	73.8	+ 45.3%	▲ 28.3%
北関東	64.0	+ 46.8%	▲ 33.6%
南関東	48.5	+ 62.2%	▲ 47.8%
甲信越	72.0	+ 37.1%	▲ 32.8%
東海	55.6	+ 53.2%	▲ 40.5%
北陸	68.2	+ 58.6%	▲ 34.4%
近畿	54.7	+ 50.3%	▲ 41.1%
中国	61.9	+ 43.3%	▲ 35.0%
四国	60.0	+ 35.7%	▲ 36.8%
九州	60.4	+ 40.1%	▲ 33.6%
沖縄	48.3	+ 86.5%	▲ 46.5%

注) 2022年10月2日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

表2 地域ブロック別おでかけ指数 指数・2019年同月比によるソート

< 指数順 >

順位	地域	2022年	前年比	2019年
		9月		同月比
1	北海道	87.0	+ 65.1%	▲ 25.5%
2	東北	73.8	+ 45.3%	▲ 28.3%
3	甲信越	72.0	+ 37.1%	▲ 32.8%
4	北陸	68.2	+ 58.6%	▲ 34.4%
5	北関東	64.0	+ 46.8%	▲ 33.6%
6	中国	61.9	+ 43.3%	▲ 35.0%
7	九州	60.4	+ 40.1%	▲ 33.6%
8	四国	60.0	+ 35.7%	▲ 36.8%
9	東海	55.6	+ 53.2%	▲ 40.5%
10	近畿	54.7	+ 50.3%	▲ 41.1%
11	南関東	48.5	+ 62.2%	▲ 47.8%
12	沖縄	48.3	+ 86.5%	▲ 46.5%

< 2019年同月比順 >

順位	地域	2022年	前年比	2019年
		9月		同月比
1	北海道	87.0	+ 65.1%	▲ 25.5%
2	東北	73.8	+ 45.3%	▲ 28.3%
3	甲信越	72.0	+ 37.1%	▲ 32.8%
4	北関東	64.0	+ 46.8%	▲ 33.6%
5	九州	60.4	+ 40.1%	▲ 33.6%
6	北陸	68.2	+ 58.6%	▲ 34.4%
7	中国	61.9	+ 43.3%	▲ 35.0%
8	四国	60.0	+ 35.7%	▲ 36.8%
9	東海	55.6	+ 53.2%	▲ 40.5%
10	近畿	54.7	+ 50.3%	▲ 41.1%
11	沖縄	48.3	+ 86.5%	▲ 46.5%
12	南関東	48.5	+ 62.2%	▲ 47.8%

注) 2022年10月2日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

3. 都道府県別のおでかけ指数：前月に続き、全都道府県で悪化

2022年9月のおでかけ指数を47都道府県別にみると、全都道府県で前年比はプラス、2019年同月比はマイナスとなった(表3、表4)。前月までと同様、指数の上位には北海道(87.0)、青森県(84.4)、岩手県(80.3)など東日本の地方圏が並ぶ。これらの地域では、新型コロナウイルスの感染者数が落ち着いているときに人流が回復しやすい傾向があるほか、台風の影響を受けにくかったためとみられる。指数の下位には東京都(46.9)、沖縄県(48.3)、大阪府(50.5)、三重県(50.9)など三大都市やその周辺、および沖縄県が並ぶ。

2019年同月比は全都道府県で前月よりもマイナス幅が縮小しており、相対的に回復が進む北海道・東北の道県では▲20%台が多くなっている。九州内では、長崎県において2019年比のマイナス幅縮小が比較的強く(前月：▲45.1%→当月：▲32.8%)、9月23日の西九州新幹線開業が影響しているものとみられる。

表3 都道府県別おでかけ指数

地域	2022年9月	前年比	2019年同月比	地域	2022年9月	前年比	2019年同月比
全国	56.9	+ 52.1%	▲ 40.2%	三重県	50.9	+ 46.3%	▲ 42.7%
北海道	87.0	+ 65.1%	▲ 25.5%	滋賀県	59.5	+ 45.5%	▲ 37.6%
青森県	84.4	+ 64.8%	▲ 21.9%	京都府	59.2	+ 70.6%	▲ 34.1%
岩手県	80.3	+ 49.0%	▲ 23.7%	大阪府	50.5	+ 62.9%	▲ 45.9%
宮城県	64.7	+ 51.2%	▲ 34.5%	兵庫県	55.2	+ 36.3%	▲ 41.0%
秋田県	78.9	+ 28.7%	▲ 25.3%	奈良県	61.3	+ 23.6%	▲ 32.3%
山形県	73.7	+ 28.0%	▲ 31.6%	和歌山県	61.4	+ 17.9%	▲ 34.8%
福島県	71.3	+ 43.2%	▲ 28.2%	鳥取県	65.7	+ 30.1%	▲ 34.4%
茨城県	62.5	+ 41.7%	▲ 34.1%	島根県	63.0	+ 33.2%	▲ 34.4%
栃木県	62.7	+ 43.8%	▲ 33.8%	岡山県	60.1	+ 51.8%	▲ 36.3%
群馬県	67.2	+ 57.0%	▲ 32.9%	広島県	61.4	+ 52.7%	▲ 36.4%
埼玉県	52.2	+ 37.4%	▲ 44.0%	山口県	63.8	+ 28.1%	▲ 29.9%
千葉県	51.5	+ 41.9%	▲ 43.7%	徳島県	57.1	+ 30.4%	▲ 38.6%
東京都	46.9	+ 73.1%	▲ 49.7%	香川県	56.4	+ 51.2%	▲ 40.4%
神奈川県	52.0	+ 53.8%	▲ 43.9%	愛媛県	60.6	+ 33.5%	▲ 35.7%
新潟県	71.0	+ 32.0%	▲ 28.3%	高知県	66.0	+ 29.7%	▲ 32.7%
富山県	71.6	+ 57.4%	▲ 31.5%	福岡県	60.0	+ 53.1%	▲ 35.0%
石川県	65.5	+ 69.3%	▲ 37.7%	佐賀県	56.7	+ 28.0%	▲ 33.7%
福井県	69.4	+ 44.9%	▲ 31.2%	長崎県	59.3	+ 50.1%	▲ 32.8%
山梨県	70.9	+ 38.5%	▲ 39.3%	熊本県	65.3	+ 19.4%	▲ 31.6%
長野県	73.7	+ 41.5%	▲ 32.4%	大分県	63.4	+ 31.3%	▲ 29.6%
岐阜県	66.5	+ 40.3%	▲ 34.4%	宮崎県	61.0	+ 33.2%	▲ 30.0%
静岡県	54.2	+ 50.1%	▲ 41.2%	鹿児島県	56.7	+ 37.6%	▲ 36.4%
愛知県	55.1	+ 61.1%	▲ 41.1%	沖縄県	48.3	+ 86.5%	▲ 46.5%

注) 2022年10月2日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

表4 都道府県別おでかけ指数 指数・2019年同月比によるソート

< 指数順 >

< 2019年同月比順 >

順位	地域	2022年9月	前年比	2019年同月比
1	北海道	87.0	+ 65.1%	▲ 25.5%
2	青森県	84.4	+ 64.8%	▲ 21.9%
3	岩手県	80.3	+ 49.0%	▲ 23.7%
4	秋田県	78.9	+ 28.7%	▲ 25.3%
5	山形県	73.7	+ 28.0%	▲ 31.6%
	長野県	73.7	+ 41.5%	▲ 32.4%
7	富山県	71.6	+ 57.4%	▲ 31.5%
8	福島県	71.3	+ 43.2%	▲ 28.2%
9	新潟県	71.0	+ 32.0%	▲ 28.3%
10	山梨県	70.9	+ 38.5%	▲ 39.3%
11	福井県	69.4	+ 44.9%	▲ 31.2%
12	群馬県	67.2	+ 57.0%	▲ 32.9%
13	岐阜県	66.5	+ 40.3%	▲ 34.4%
14	高知県	66.0	+ 29.7%	▲ 32.7%
15	鳥取県	65.7	+ 30.1%	▲ 34.4%
16	石川県	65.5	+ 69.3%	▲ 37.7%
17	熊本県	65.3	+ 19.4%	▲ 31.6%
18	宮城県	64.7	+ 51.2%	▲ 34.5%
19	山口県	63.8	+ 28.1%	▲ 29.9%
20	大分県	63.4	+ 31.3%	▲ 29.6%
21	島根県	63.0	+ 33.2%	▲ 34.4%
22	栃木県	62.7	+ 43.8%	▲ 33.8%
23	茨城県	62.5	+ 41.7%	▲ 34.1%
24	和歌山県	61.4	+ 17.9%	▲ 34.8%
	広島県	61.4	+ 52.7%	▲ 36.4%
26	奈良県	61.3	+ 23.6%	▲ 32.3%
27	宮崎県	61.0	+ 33.2%	▲ 30.0%
28	愛媛県	60.6	+ 33.5%	▲ 35.7%
29	岡山県	60.1	+ 51.8%	▲ 36.3%
30	福岡県	60.0	+ 53.1%	▲ 35.0%
31	滋賀県	59.5	+ 45.5%	▲ 37.6%
32	長崎県	59.3	+ 50.1%	▲ 32.8%
33	京都府	59.2	+ 70.6%	▲ 34.1%
34	徳島県	57.1	+ 30.4%	▲ 38.6%
35	佐賀県	56.7	+ 28.0%	▲ 33.7%
	鹿児島県	56.7	+ 37.6%	▲ 36.4%
37	香川県	56.4	+ 51.2%	▲ 40.4%
38	兵庫県	55.2	+ 36.3%	▲ 41.0%
39	愛知県	55.1	+ 61.1%	▲ 41.1%
40	静岡県	54.2	+ 50.1%	▲ 41.2%
41	埼玉県	52.2	+ 37.4%	▲ 44.0%
42	神奈川県	52.0	+ 53.8%	▲ 43.9%
43	千葉県	51.5	+ 41.9%	▲ 43.7%
44	三重県	50.9	+ 46.3%	▲ 42.7%
45	大阪府	50.5	+ 62.9%	▲ 45.9%
46	沖縄県	48.3	+ 86.5%	▲ 46.5%
47	東京都	46.9	+ 73.1%	▲ 49.7%

順位	地域	2022年9月	前年比	2019年同月比
1	青森県	84.4	+ 64.8%	▲ 21.9%
2	岩手県	80.3	+ 49.0%	▲ 23.7%
3	秋田県	78.9	+ 28.7%	▲ 25.3%
4	北海道	87.0	+ 65.1%	▲ 25.5%
5	福島県	71.3	+ 43.2%	▲ 28.2%
6	新潟県	71.0	+ 32.0%	▲ 28.3%
7	大分県	63.4	+ 31.3%	▲ 29.6%
8	山口県	63.8	+ 28.1%	▲ 29.9%
9	宮崎県	61.0	+ 33.2%	▲ 30.0%
10	福井県	69.4	+ 44.9%	▲ 31.2%
11	富山県	71.6	+ 57.4%	▲ 31.5%
12	山形県	73.7	+ 28.0%	▲ 31.6%
13	熊本県	65.3	+ 19.4%	▲ 31.6%
14	奈良県	61.3	+ 23.6%	▲ 32.3%
15	長野県	73.7	+ 41.5%	▲ 32.4%
16	高知県	66.0	+ 29.7%	▲ 32.7%
17	長崎県	59.3	+ 50.1%	▲ 32.8%
18	群馬県	67.2	+ 57.0%	▲ 32.9%
19	佐賀県	56.7	+ 28.0%	▲ 33.7%
20	栃木県	62.7	+ 43.8%	▲ 33.8%
21	茨城県	62.5	+ 41.7%	▲ 34.1%
22	京都府	59.2	+ 70.6%	▲ 34.1%
23	鳥取県	65.7	+ 30.1%	▲ 34.4%
24	岐阜県	66.5	+ 40.3%	▲ 34.4%
25	島根県	63.0	+ 33.2%	▲ 34.4%
26	宮城県	64.7	+ 51.2%	▲ 34.5%
27	和歌山県	61.4	+ 17.9%	▲ 34.8%
28	福岡県	60.0	+ 53.1%	▲ 35.0%
29	愛媛県	60.6	+ 33.5%	▲ 35.7%
30	岡山県	60.1	+ 51.8%	▲ 36.3%
31	鹿児島県	56.7	+ 37.6%	▲ 36.4%
32	広島県	61.4	+ 52.7%	▲ 36.4%
33	滋賀県	59.5	+ 45.5%	▲ 37.6%
34	石川県	65.5	+ 69.3%	▲ 37.7%
35	徳島県	57.1	+ 30.4%	▲ 38.6%
36	山梨県	70.9	+ 38.5%	▲ 39.3%
37	香川県	56.4	+ 51.2%	▲ 40.4%
38	兵庫県	55.2	+ 36.3%	▲ 41.0%
39	愛知県	55.1	+ 61.1%	▲ 41.1%
40	静岡県	54.2	+ 50.1%	▲ 41.2%
41	三重県	50.9	+ 46.3%	▲ 42.7%
42	千葉県	51.5	+ 41.9%	▲ 43.7%
43	神奈川県	52.0	+ 53.8%	▲ 43.9%
44	埼玉県	52.2	+ 37.4%	▲ 44.0%
45	大阪府	50.5	+ 62.9%	▲ 45.9%
46	沖縄県	48.3	+ 86.5%	▲ 46.5%
47	東京都	46.9	+ 73.1%	▲ 49.7%

注) 2022年10月2日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

5. 西九州新幹線開業により沿線地域で人出が増加

9月23日に西九州新幹線の武雄温泉～長崎間が開業し、沿線地域は人出が増加している。2022年9月下旬（21～30日）における沿線市のおでかけ指数（曜日調整値の期間平均値）は武雄市で103.7、嬉野市で96.9、長崎市で82.1となり、前年の2倍以上（前年比+100%以上）の人出がみられた。武雄市と嬉野市ではコロナ禍前の2019年をも上回る水準となった。ただし、大村市（前年比+24.8%）は九州全体（前年比+53.2%）を下回る前年比であり、沿線のなかでも差がみられる。

開業による人出増加が持続的であるか、また沿線の周辺などにも効果が及ぶか、今後注視が必要である。

表5 9月下旬のおでかけ指数

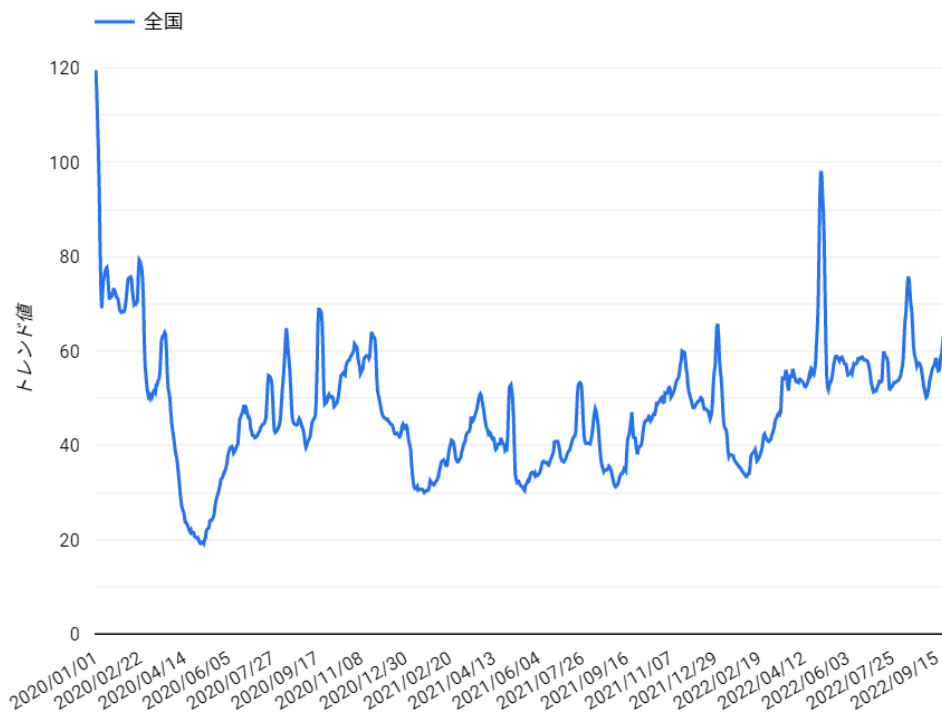
	2019年	2020年	2021年	2022年	前年比
	9月下旬	9月下旬	9月下旬	9月下旬	
九州	86.4	67.2	49.1	75.2	+ 53.2%
佐賀県	82.2	70.4	51.1	73.4	+ 43.8%
武雄市	84.8	70.0	46.0	103.7	+ 125.6%
嬉野市	88.9	76.5	46.8	96.9	+ 107.1%
長崎県	83.5	71.1	47.9	77.4	+ 61.8%
長崎市	84.9	58.7	37.4	82.1	+ 119.3%
諫早市	85.5	80.3	37.0	69.9	+ 88.7%
大村市	84.4	61.6	53.2	66.4	+ 24.8%

注) 曜日調整値（トレンド+イベント成分）の期間平均値 資料) 九経調 DATASALAD

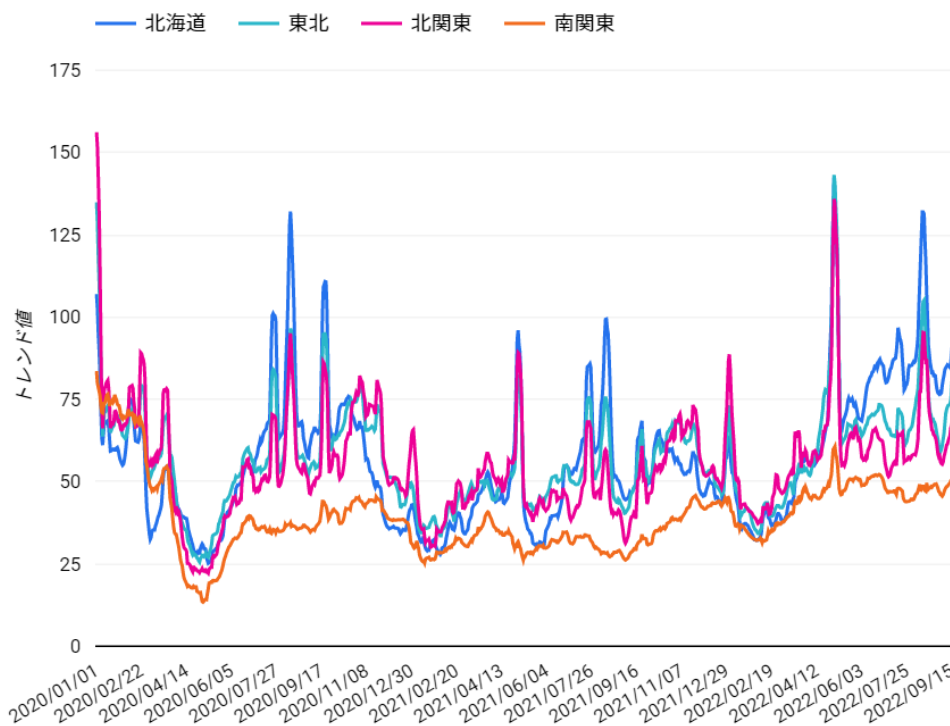
6. 日次推移

図5 地域ブロック別の日次推移（トレンド値）

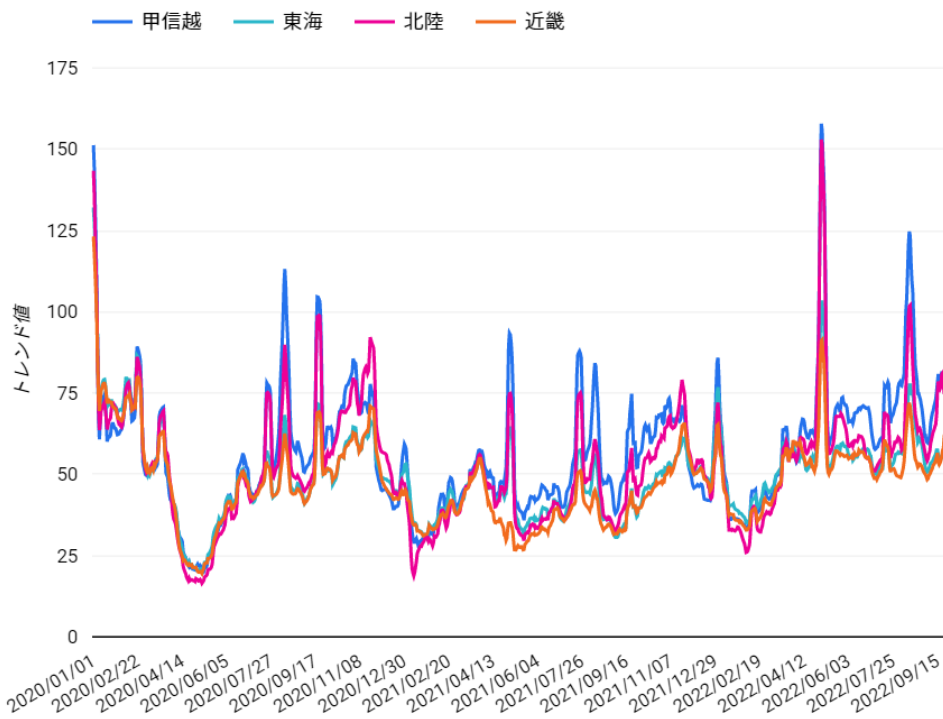
<全国>



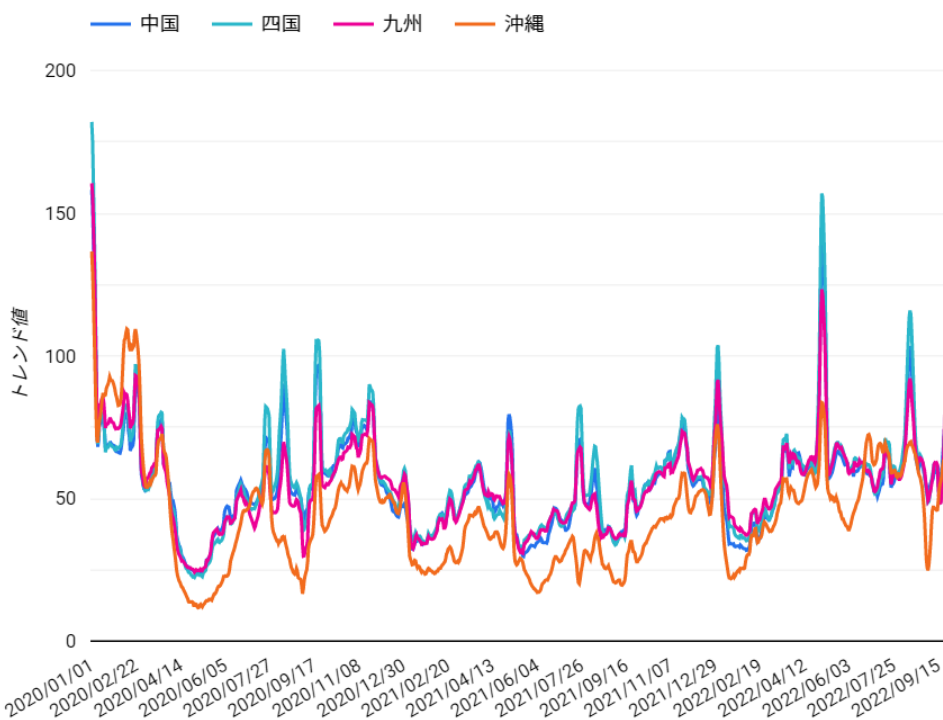
<北海道～南関東>



< 甲信越～近畿 >



< 中国～沖縄 >



注) 2022年10月2日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

小柳 真二 (事業開発部 主任研究員)

E-mail: skoyanagi@kerc.or.jp

参考：おでかけ指数の定義・算出方法

おでかけ指数は、市区町村別の人流をコロナ禍前の 2019 年を基準に指数化したものである。これを、来訪地側（着地側。ある市区町村への来訪者数）と、発地側（ある市区町村（居住地域とみなされる市区町村）からの出発者数）の双方について算出している。具体的には、以下のようなルールである（試作版のため、今後変更の可能性がある）。

①対象期間、公表時期

来訪地側・発地側とも 2019 年 1 月以降である。おでかけウォッチャー（以下、OW）と同じく、毎週月～日曜日のデータを翌木曜日に公表する。

②モニタリングスポット、市区町村ごとのユニーク化

OW では、各市区町村につき最大 20 地点をモニタリングスポットとして設定し、それらの地点のいずれかを訪れた人数を市区町村別来訪者数として算出している（複数地点を訪れた場合も 1 人とカウント）。来訪地側（着地側）のおでかけ指数で用いるのは、この市区町村別来訪者数である。また発地側は同じデータを発地側で集計した人数を基としている。

OW では各市区町村（基礎自治体）がモニタリングスポットを任意の地点に変更できるサービスとしているが、おでかけ指数ではデータの連続性を保つ観点から、OW のリリース時点（2021 年 10 月）に九経調がデフォルトとして設定したスポット（※）を対象としている。

※各市区町村において来訪者数（2019 年のゴールデンウィークにおける 250m メッシュ別の来訪者数）が上位 20 のメッシュを選定した。ただし、選定の際には、より上位のメッシュと隣接（メッシュ中心間の距離が 500m 以内）するメッシュは除外した。

③人流計測の条件

すべての人流が来訪および出発としてカウントされるのではなく、居住地域とみなされる場所から 20km 以上離れた場所で位置情報が一定時間検出された場合、かつそれが通勤・通学のような日常的な訪問地ではない場合という条件がある。

④指数算出地域

②の通り市区町村別にユニーク化した人数を基礎に指数を算出しているため、厳密には市区町村別の指数を参照いただきたい。ただ、より上位スケールの地域間比較等のニーズもあるため、市区町村別の人数を足し上げて都道府県や地域ブロック別の人数を算出し、それをもとにこれらの地域別の指数も公表している。

⑤算出方法

各地域（市区町村や都道府県等）について、2019 年の 1 日当たり平均人数を 100 として、各日の人数を指数化したものを原数値とする。そのうえで、人流には曜日による変動が大きい特徴があり、原数値のままではトレンドをとらえにくいことから、原数値を 7 日間周期のデータとみなし、トレンド成分（中長期的変動）、曜日成分（曜日による変動）、イベント成分（天候やイベント（催事）等による短期的変動。他の 2 つの残差）の 3 つに要因分解を行うことで、トレンド値および曜日調整値を得る。各数値の計算方法・等式は以下の通りである。

原数値 = (各日人数 ÷ 2019 年の 1 日当たり平均人数) × 100 日次（原数値）

トレンド値 = トレンド成分 = 原数値 - 曜日成分 - イベント成分

曜日調整値 = 原数値 - 曜日成分

⑥一部地域の算出除外

位置情報ビッグデータは個人特定がなされないように抽象化処理がなされたものであり、その過程で閾値未満の人流は秘匿されるため、来訪者数・出発者数のカウントから除外される。したがって、来訪者数・出発者数が毎日計測されていない一部地域（離島等）が存在する。このような地域について⑤のような手法による指数化は、ブレが大きくなるなど必ずしも適切でないため、2019 年において来訪者数・出発者数が計測される日が 180 日未満の自治体については指数を算出しない。